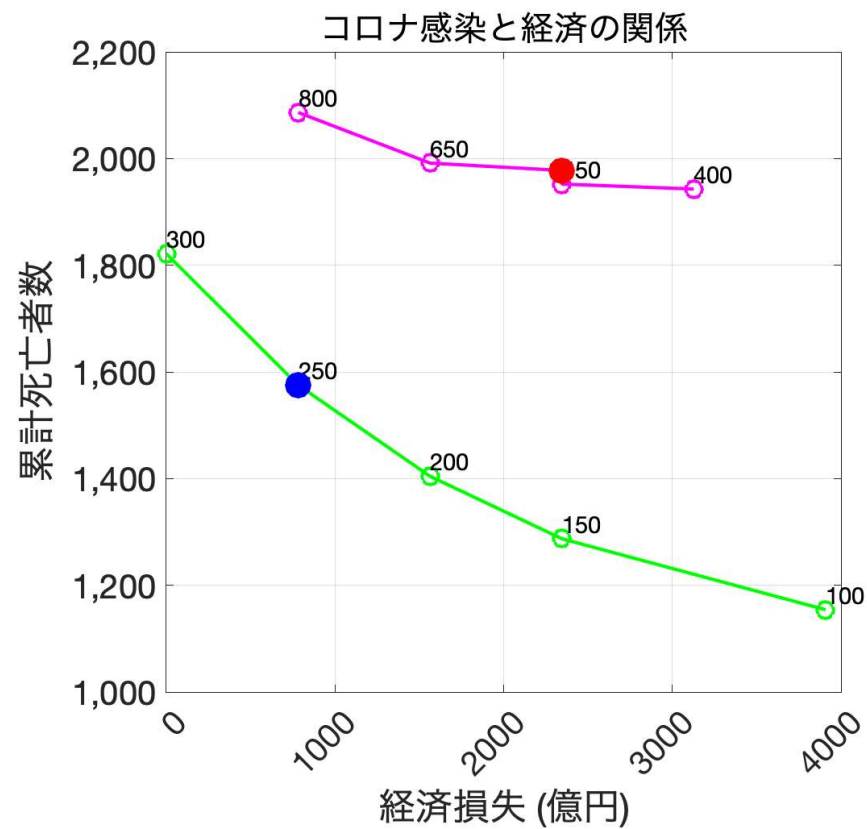
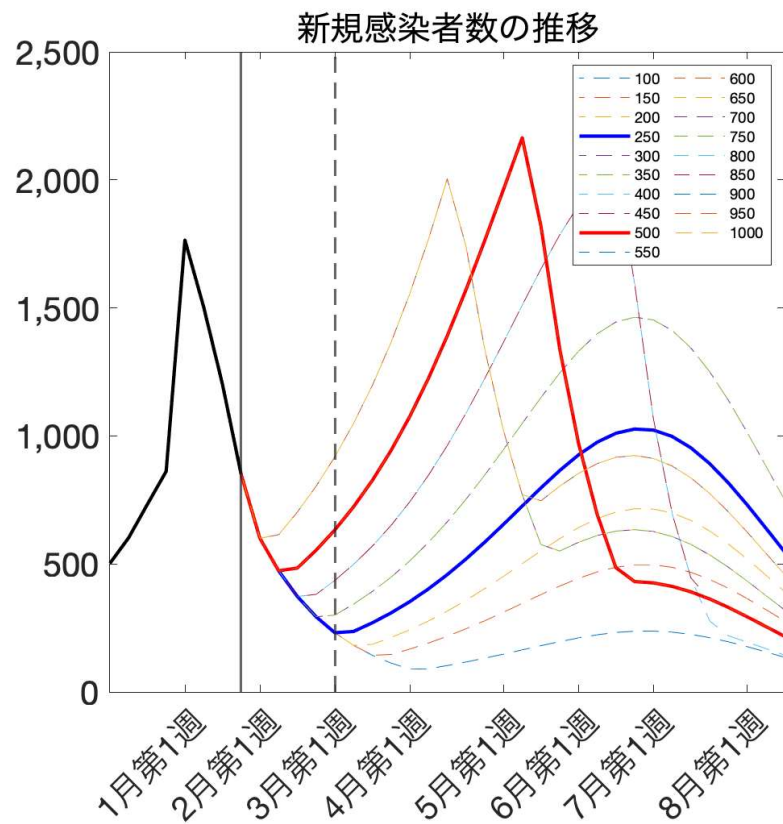

3月7日に解除すべきか？—1か月前の見通し と現在の見通しの比較から言えること—

2021年3月2日

藤井大輔(東京大学)

仲田泰祐(東京大学)

東京：1か月前の見通し

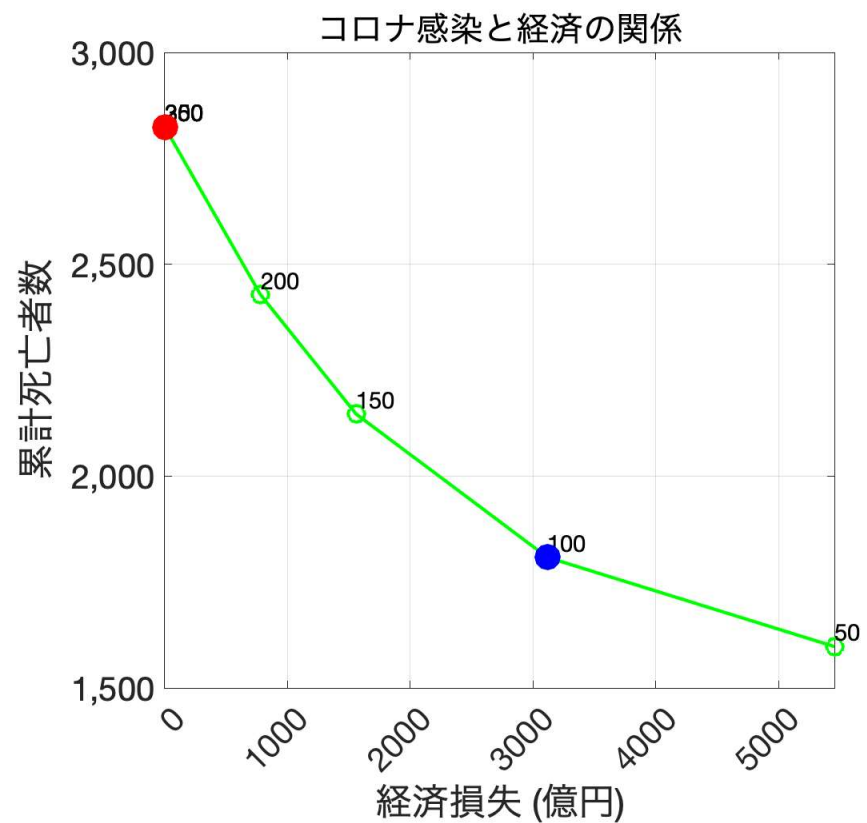
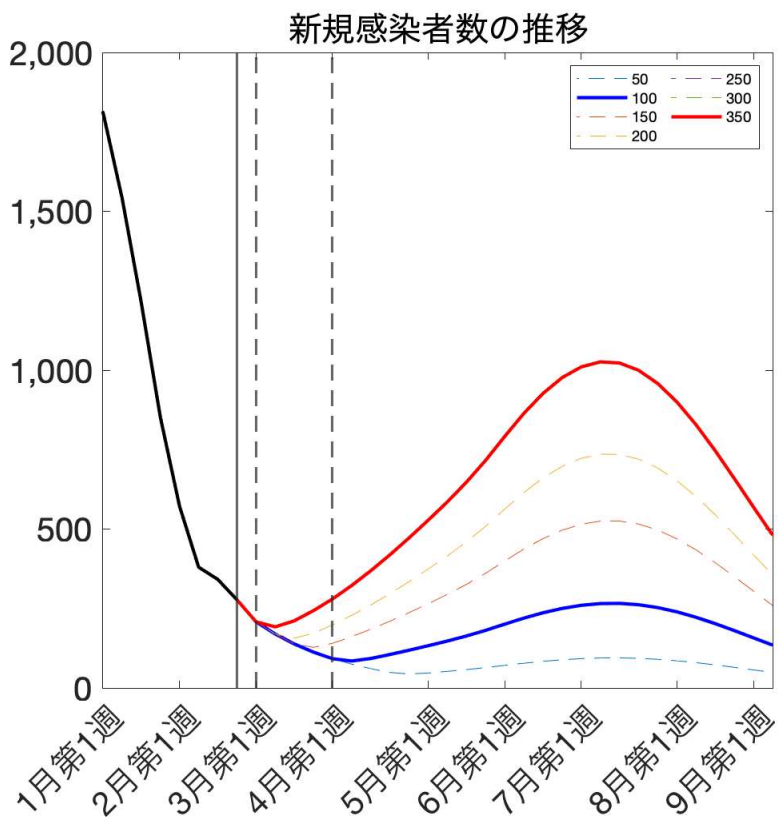


東京：1か月前の見通し

当時の基本シナリオでは

- 2月第2週に500人を下回った時点で宣言解除すると・・・
 - 5月に再度緊急事態宣言発令
 - 経済損失、死亡者両方とも多くなる
- 3月第1週に250人を下回った時点で宣言解除すると・・・
 - 再度緊急事態宣言発令を招くことなく、ワクチンの力で感染収束

東京：現在の見通し



東京：現在の見通し

これまでは、1か月前の基本シナリオとほぼ同じ感染減少ペース

- ちょうど3月第1週に250人を下回りそう

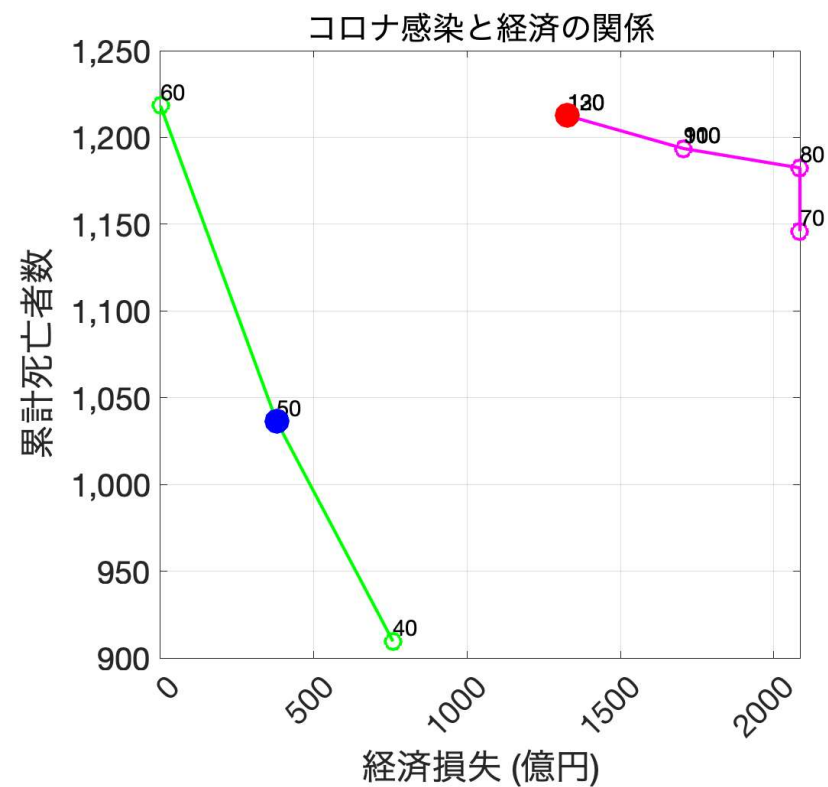
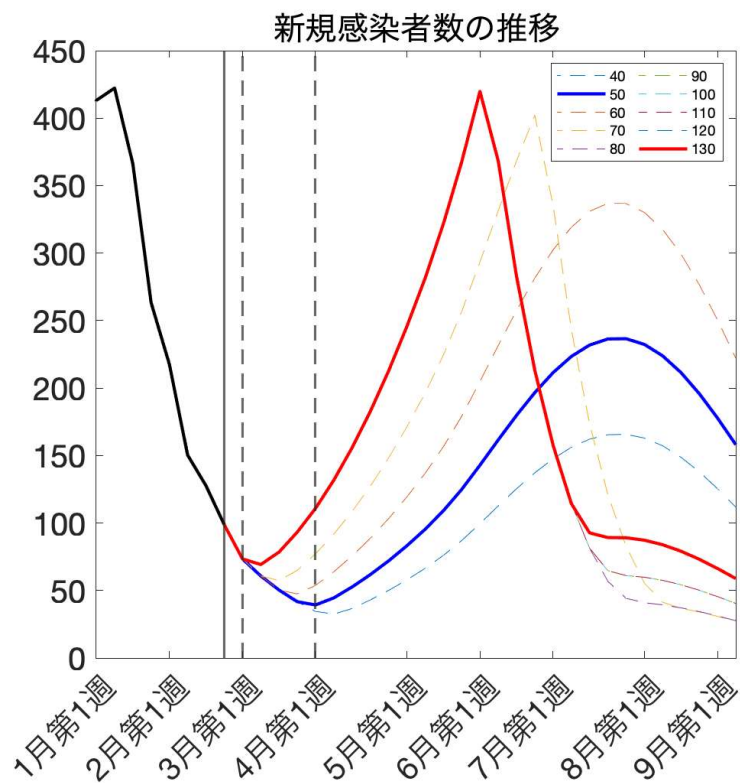
現在の基本見通しでは

- 3月第1週に解除すると、再度緊急事態宣言発令を招くことなく、ワクチンの力で感染収束
 - (ワクチン接種見通しは、1か月前よりも少し悲観的になったにも関わらず)

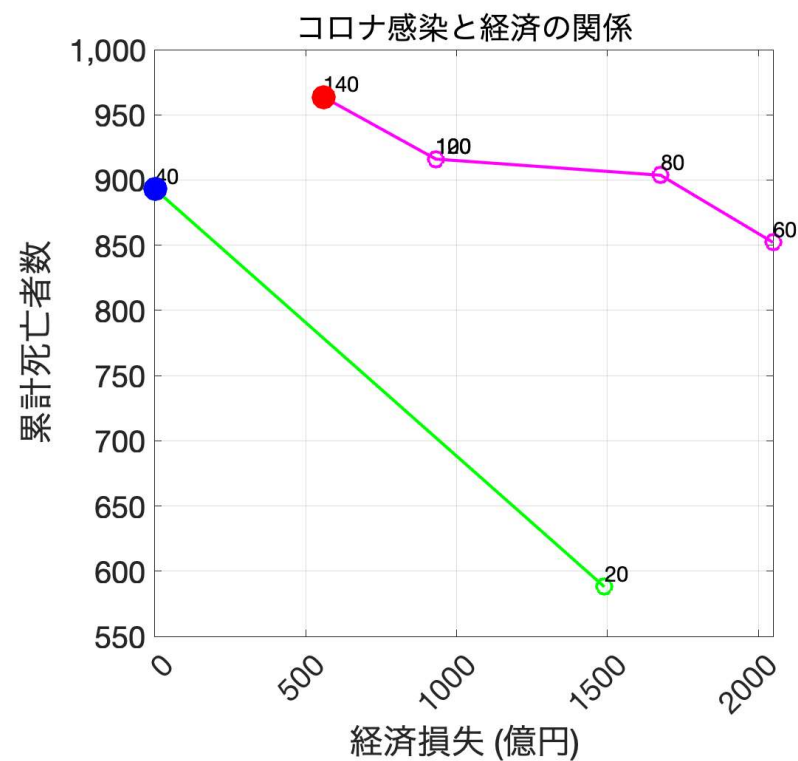
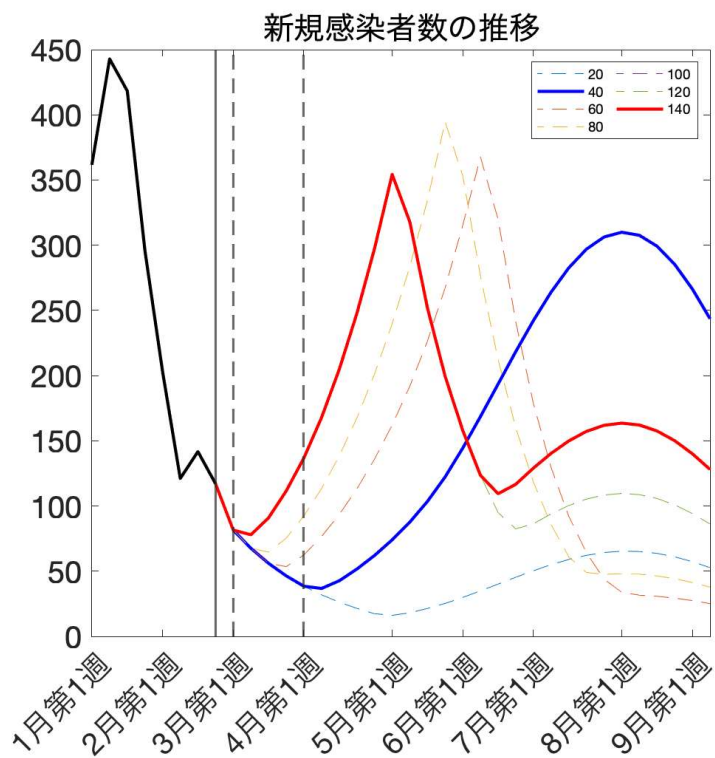
3月7日に解除すべき？

- 1か月前の分析では考慮されなかった要素
 - 近隣3県の見通し(以下で分析)
 - 3月後半、4月前半の行事増加、それにともなう気の緩み(以下で分析)
 - 変異株リスク

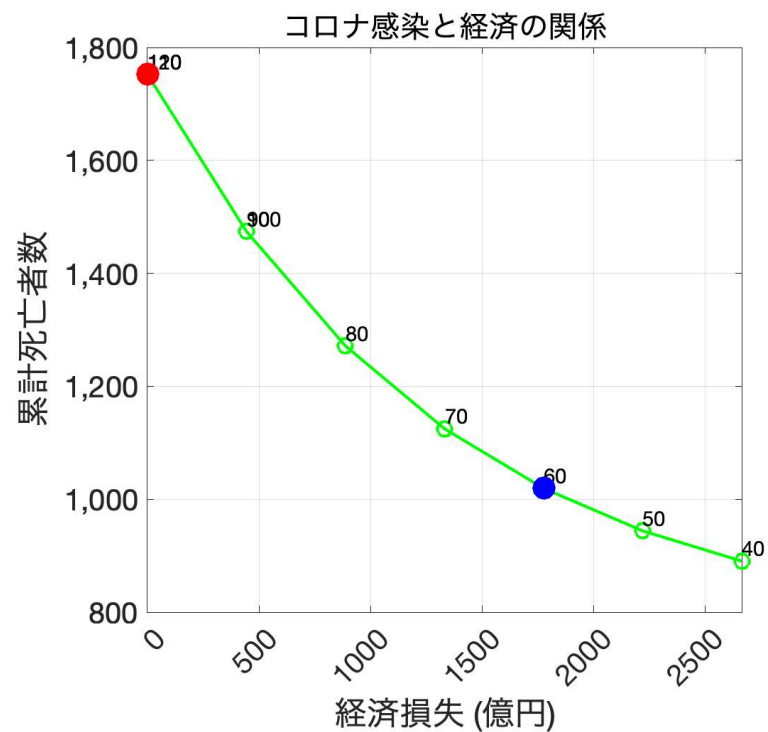
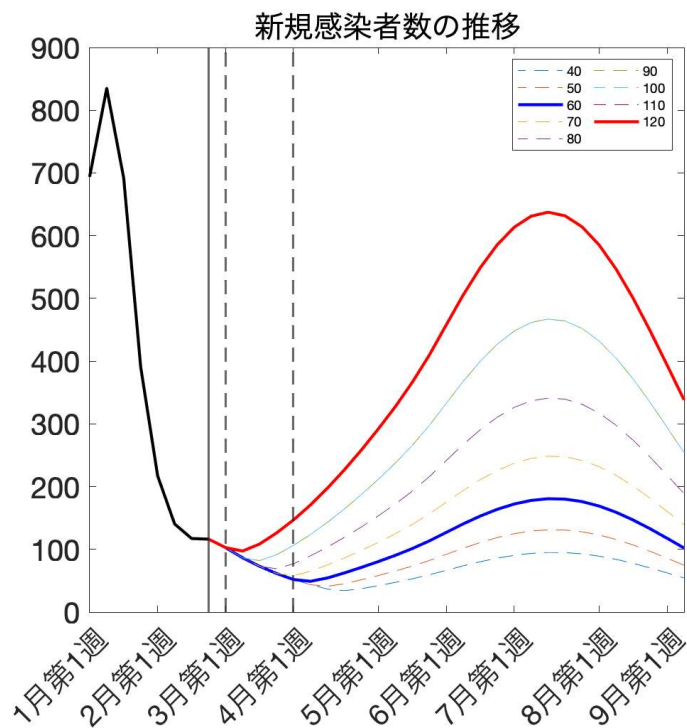
埼玉：現在の見通し



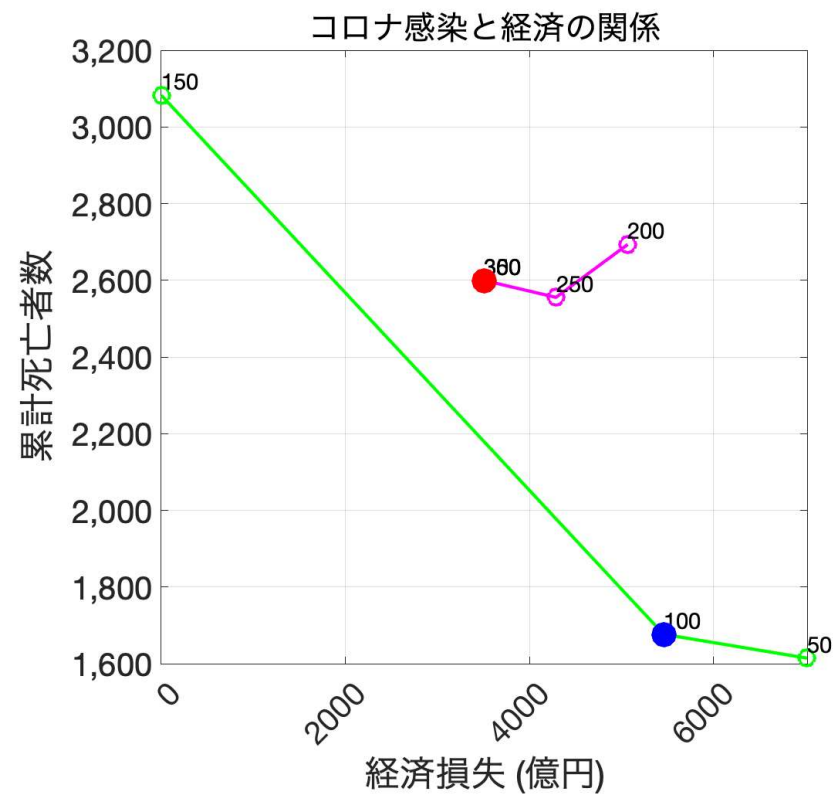
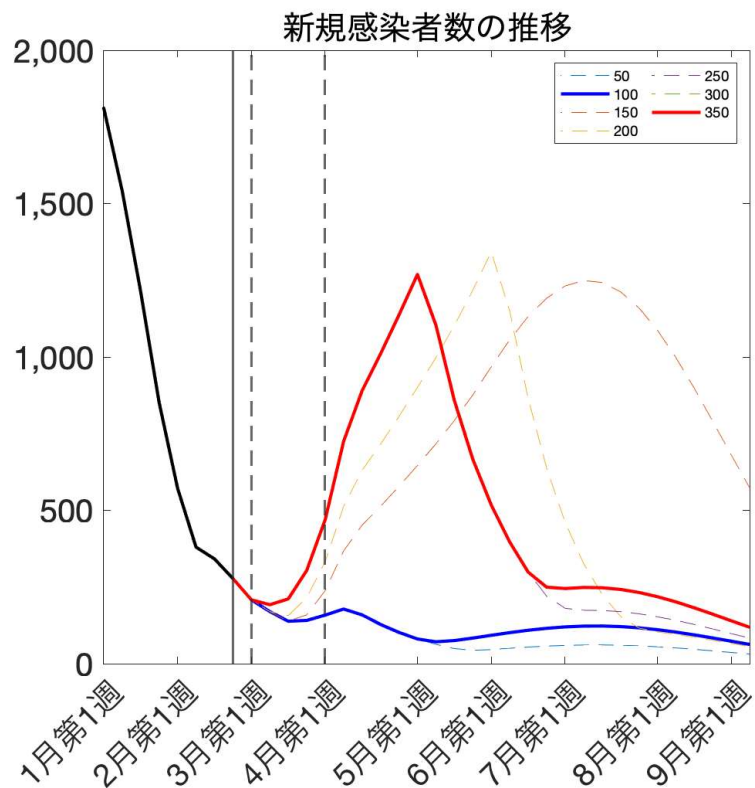
千葉：現在の見通し



神奈川県：現在の見通し



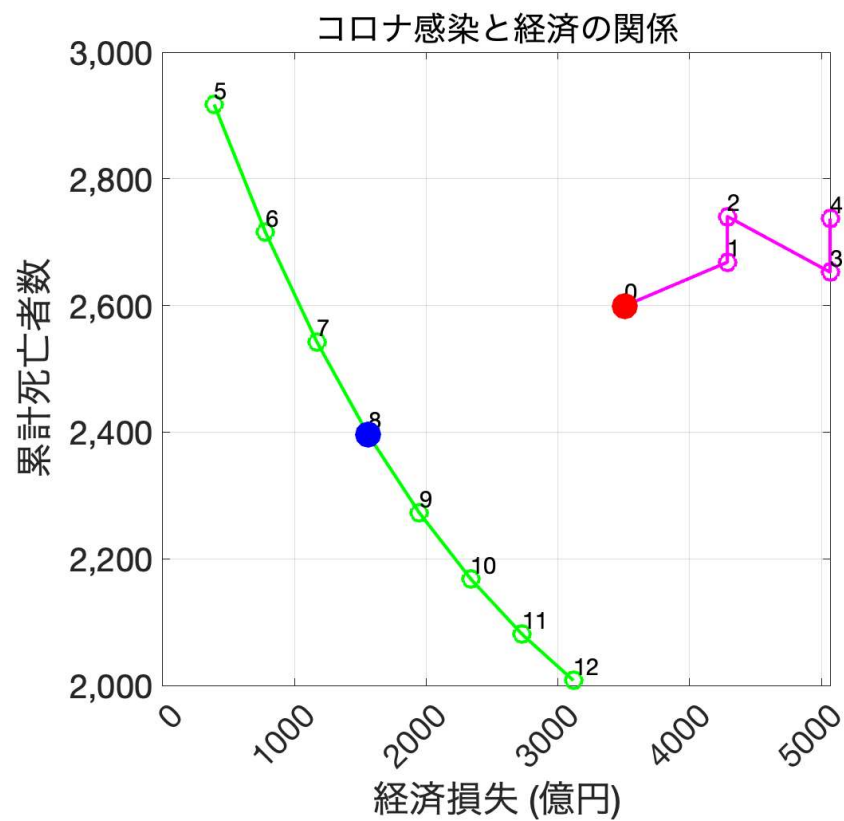
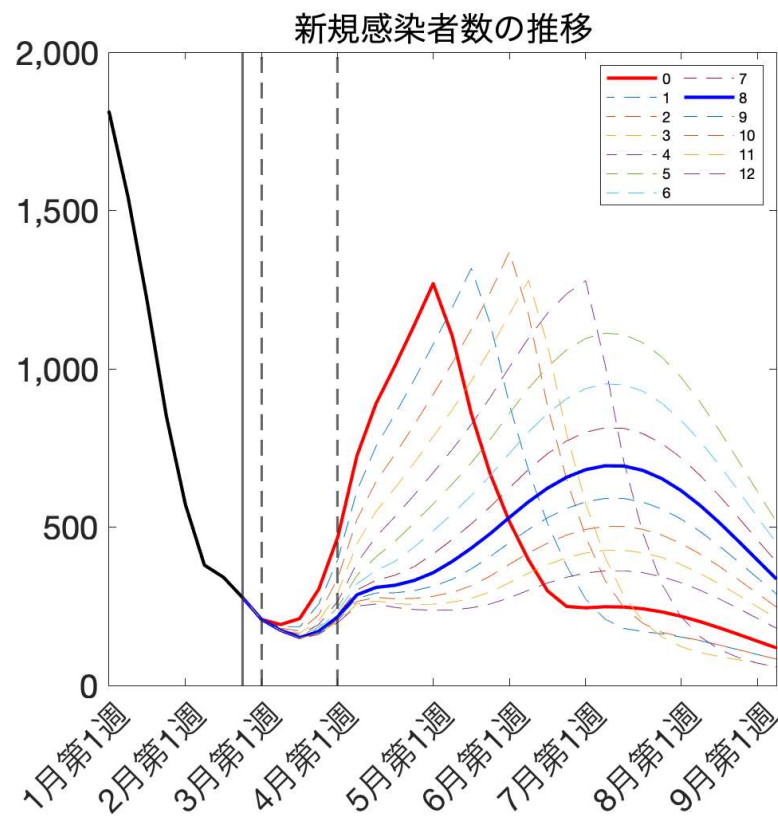
東京：気の緩みシナリオ



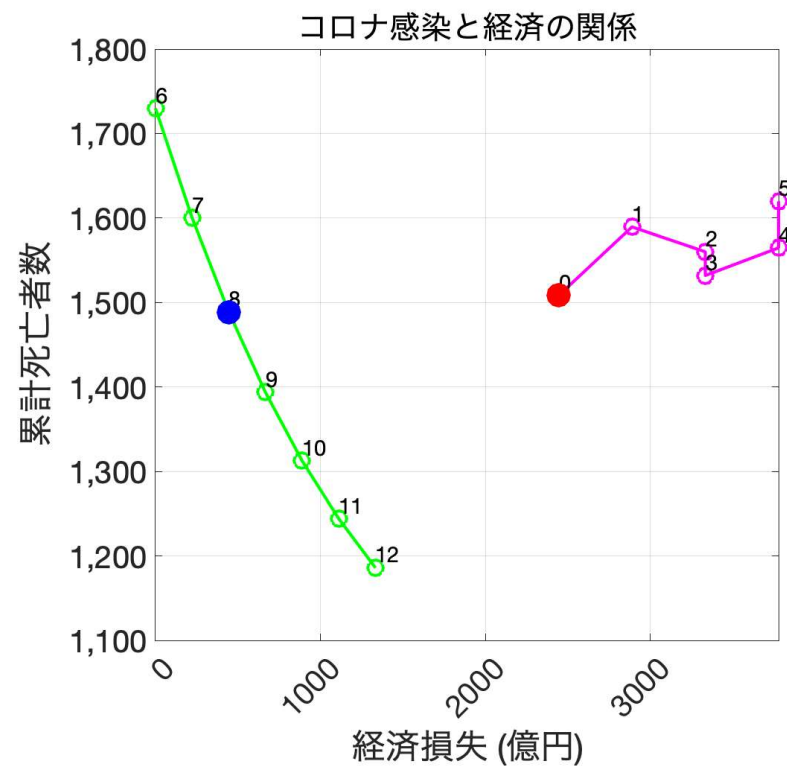
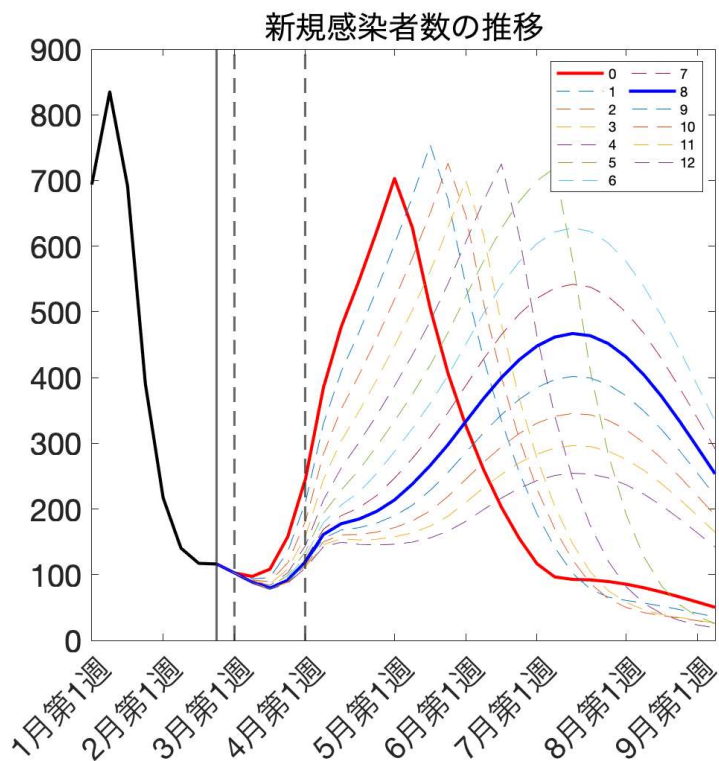
東京・神奈川：段階的緩和

- 東京・神奈川では、段階的緩和によって、気の緩みシナリオでも再度緊急事態宣言を回避することが可能
- ただし中途半端な「段階的度合い」では再度宣言回避できない
 - 中途半端＝4週間以下(東京)
 - 中途半端＝5週間以下(神奈川)
 - 経済損失も増加
- 再度宣言を避けられるならば、「今解除＆段階的緩和」と「後で解除＆急速に緩和」は似たような結果に
 - 参考資料:「今解除&段階的に緩和」と「後で解除&急速に緩和」の比較(2月14日)

東京：気の緩みシナリオ＋段階的緩和



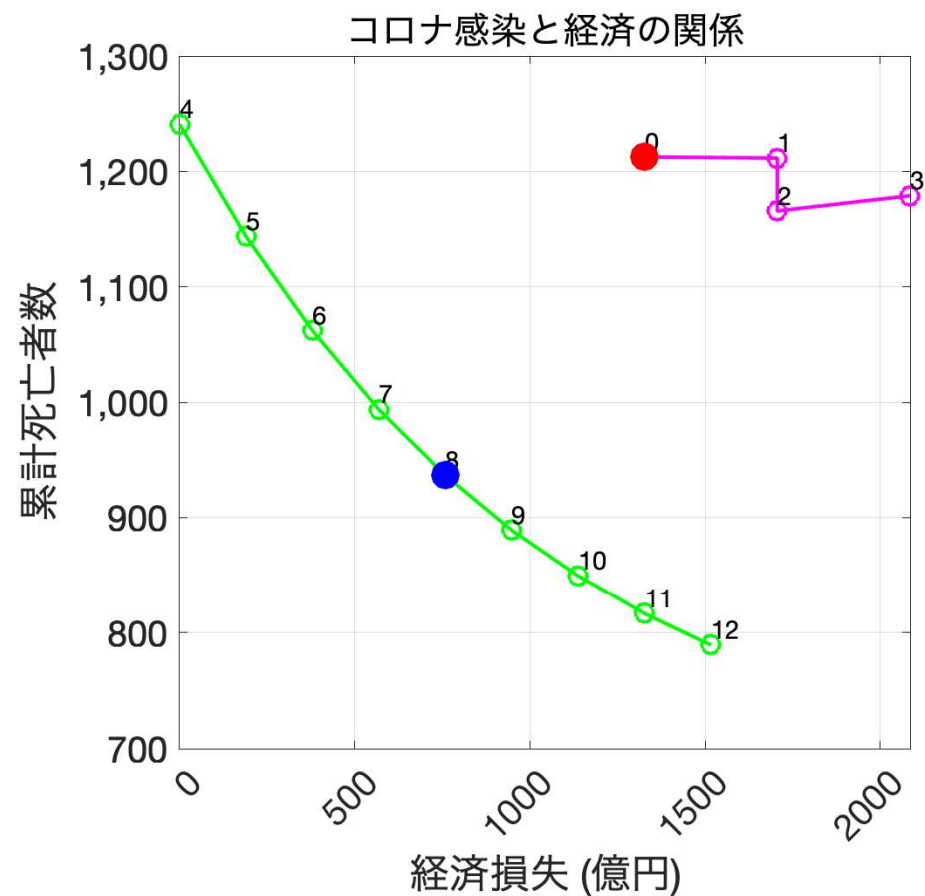
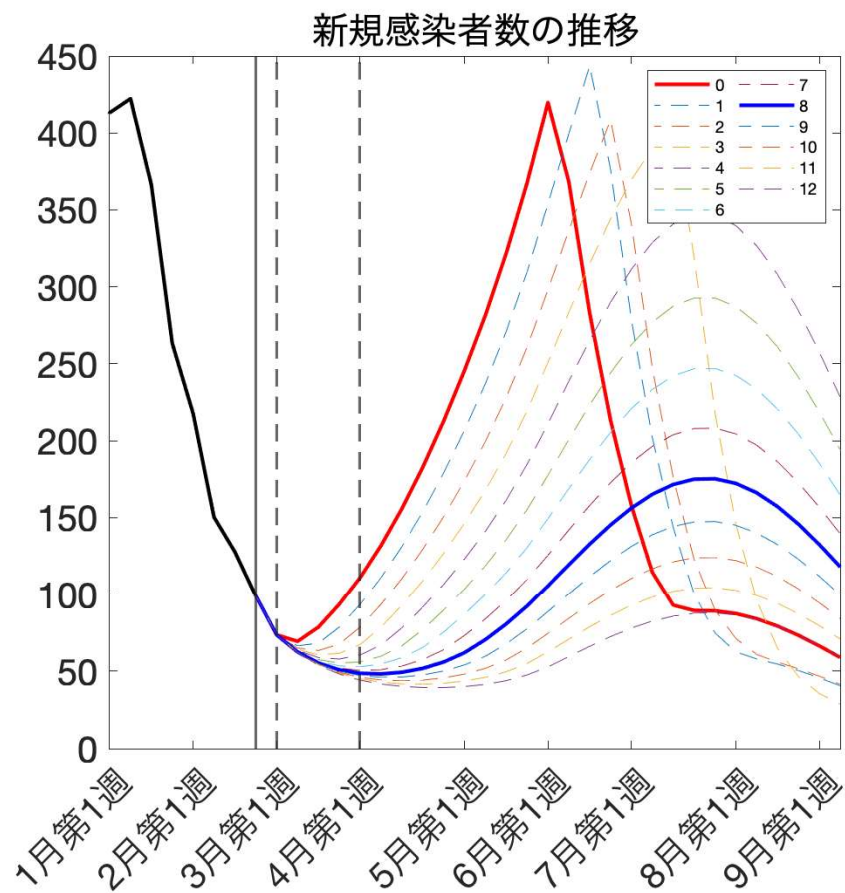
神奈川県：気の緩みシナリオ＋段階的緩和



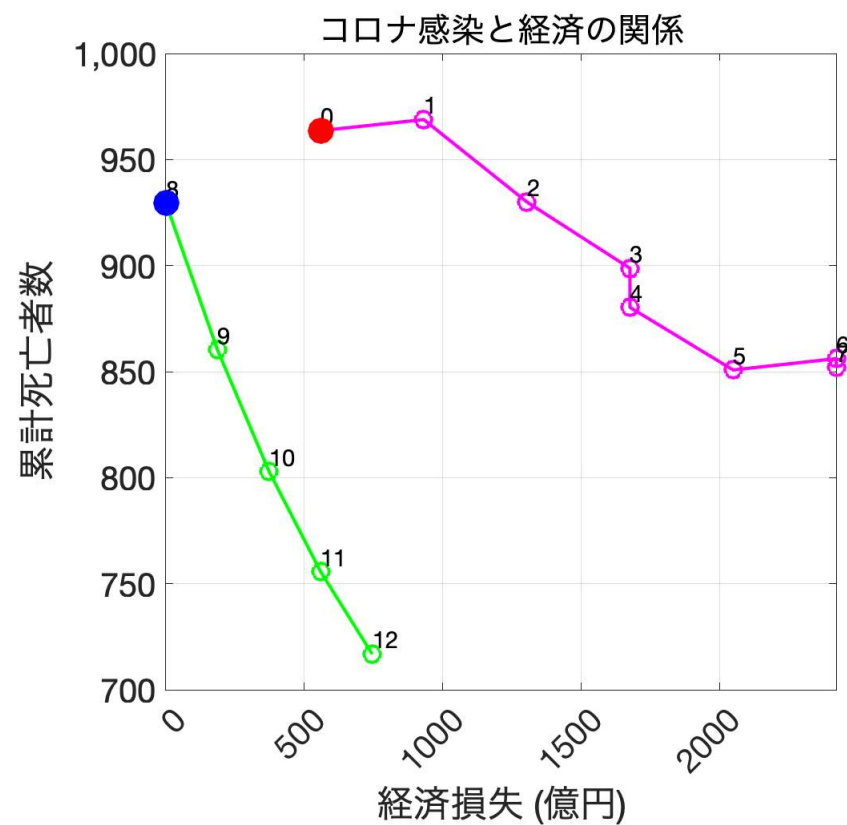
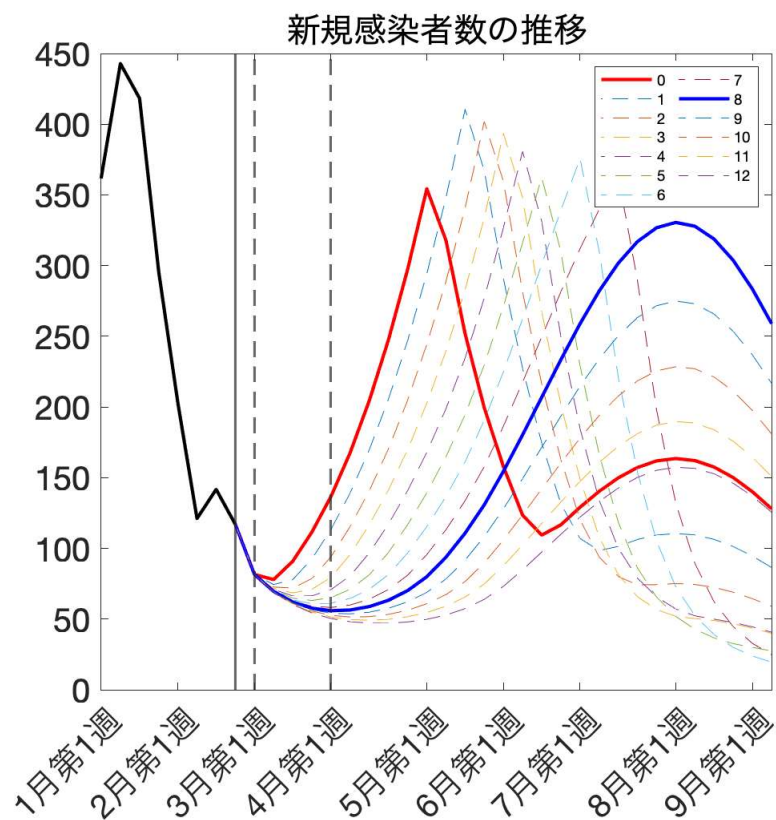
千葉・埼玉：段階的緩和

- 埼玉・千葉では、気の緩みが全くなければ、段階的緩和によって再度緊急事態宣言を回避することが可能
- ただし中途半端な「段階的度合い」では再度宣言回避できず、経済損失も膨大に
 - 中途半端＝3週間以下(埼玉)
 - 中途半端＝7週間以下(千葉)
- 気の緩みシナリオでは、段階的緩和でも再度宣言回避が困難

埼玉：基本シナリオ＋段階的緩和



千葉：基本シナリオ＋段階的緩和



3月7日に解除すべき？

- 1か月前の「今解除すべき？」という問い
 - はっきりとした答えが存在していた

- 現在の「今解除すべき？」という問い
 - はっきりとした答えが存在しない
 - どのような解除か、どのような延長かが重要
 - 参考資料:「解除時期の模索」から「リスク管理」へ(2月23日)

慎重な解除＝配慮のある延長

- 慎重な解除

- 例えば：I都3県での宣言解除 & 千葉・埼玉では規制はそのまま・さらなるステイホーム呼びかけ

- 配慮のある延長

- 例えば：I都3県での宣言延長 & 東京・神奈川では経済面に配慮して時短要請等の規制を少し緩めてみる

- この二つは実質同じ。心理的効果は違うかもしれないが。

3月7日に解除すべき？

- 解除・延長に関わらず、当分は「解放感」は訪れない
 - コロナ感染収束が見え始めるのは、高齢者ワクチン接種がある程度普及する段階
 - 最終的に一番重要なのはワクチン供給

- 毎週火曜日分析を更新

<https://Covid19OutputJapan.github.io/JP/>

- 質問・分析のリクエスト等
 - dfujii@e.u-tokyo.ac.jp
 - taisuke.nakata@e.u-tokyo.ac.jp